

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
スポーツ医科学		選択	1	3	後期 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山本 泰宏	C304	yasuhiro_yamamoto	水曜日 9:00~12:00		
授業の目的・概要	まずスポーツ選手の障害や外傷に対する関わりあい方の特殊性を理解する。次にスポーツと関連する障害や外傷の基本的知識を学び、その専門職としての対応方法を学ぶ。 生理学、解剖学、運動学、整形外科学、内科学の復習を行いながら、実際の診療現場で生じる問題などを事例を挙げて解説するので、教科書には載っていない実践的知識にも触れる。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	解剖学、生理学、内科学、整形外科学の知識が基本になるのでよく復習すること。				
教科書	指定しない				
参考書	授業の中で適宜紹介する				
外部教材	利用予定なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	スポーツ選手に対する対応方法の特殊性を説明できる。			PT(1)(2) OT(2)(3)	
②	スポーツと関連が深い疾患や外傷の病態を説明できる。			PT(1)(2) OT(2)(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	[オリエンテーション] スポーツ医科学とは。スポーツ選手の特殊性を学ぶ。	同時双方向型授業	一般医療とスポーツ選手に対する医療を比較し、何が同じで何が違うのか復習すること。	3	
2	[スポーツによる突然死：循環器障害] スポーツ活動中に生じる突然死を来す疾患について学ぶ。	同時双方向型授業	予習として、内科学の循環器疾患について復習しておくこと。	4	
3	[スポーツと環境：時差障害、熱中症など] 環境がスポーツ選手のパフォーマンスに与える影響を学ぶ。	同時双方向型授業	予習として、生理学の自律神経と内分泌について復習しておくこと。	4	
4	[スポーツによる外傷：脳震盪と脊髄損傷、捻挫、膝内障] 重大な後遺症を残す可能性があるスポーツ外傷と頻度の高いスポーツ外傷の病態とその対処方法を学ぶ。	同時双方向型授業	予習として、整形外科学の脊髄損傷、脊椎の疾患を復習しておくこと。	4	
5	[成長期のスポーツ障害：腰椎分離症、骨端症] 成人と成長期スポーツ障害の鑑別における注意点を学ぶ	同時双方向型授業	予習として、整形外科の脊椎の疾患、骨端症を復習しておくこと。	4	
6	[投球障害肩] スポーツ障害として頻度の高い投球障害肩の病態と対処方法を学ぶ。	同時双方向型授業	予習として、運動学の肩関節の運動、整形外科の腱板損傷を復習しておくこと。	4	
7	[鼠径部痛症候群] スポーツ障害として頻度の高い鼠径部痛症候群の病態と対処方法を学ぶ。	同時双方向型授業	予習として、解剖学、運動学の股関節の解剖と運動を復習しておくこと。	4	
8	[股関節関節唇損傷]スポーツ選手の股関節障害として最も多い股関節の関節唇損傷について学ぶ。	同時双方向型授業	最新のトピックなので予習の必要はない。講義内容の復習のみで可。	3	
試	筆記試験を行う				

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	
総合 力 指 標	知識・技術力	100	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	講義内容の理解度を評価する。				答案を返却する
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	場合により講義内容にふさわしいスポーツドクターが講義を行う場合がある。						
教員の実務経験	日本スポーツ協会公認スポーツドクター Wリーグ 山梨クイーンビーズ チームドクター						
実践的授業の内容	できる限り担当教員の経験を示し、授業内容の理解度を高めることができるように工夫する。						
そ の 他	Microsoft Teams を利用した同時双方向型遠隔授業を行う。通信量に制限がない通信環境を準備することが望ましい。 新型コロナウイルスの感染状況や外部講師の都合などにより授業内容が変更になることがある。 その場合は事前に周知するので Teams の投稿に注意を払うこと。						